

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【宮原小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 算数「数と計算」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。基礎学力定着に向けた反復や振り返りの時間を十分に確保する必要がある。	⇒ ・書き込み式ドリルやドリルパーク、学習アプリケーションの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習を進めていくことができるよう指導する【週に1度】。 ・1人1台端末を活用し、自立した学び手を育成することを目指した授業を行い、成果と課題を共有する【学期に1度程度】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 算数「数と計算」「図形」変化と関係 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。児童主体の学習活動の機会を十分に確保する必要がある。	⇒ ・評価規準を児童に示すことで、児童主体の振り返りを充実させる【週に1回程度】。 ・ICTを効果的に活用し、児童の「わかった・できた・楽しい」を引き出す。また、魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもって自力解決の場面の設定を行う【週に1回程度】。

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	令和7年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国(公立)の平均正答率と比較したところ、国語、算数、理科ともに上回る結果であった。国語においては、言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く問題で、課題が見られた。引き続き、朝学習や授業において、ワークシートやドリルパーク等を活用し、言葉の特徴や使い方等の基本的な学習の反復・習熟に取り組んでいく。	
思考・判断・表現	令和7年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、全国(公立)の平均正答率と比較したところ、国語、算数、理科ともに上回る結果であった。特に、国語の「話すこと・聞くこと」に関する問題で、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題において、正答率が全国(公立)比べて、高い結果であった。全教育課程における言語活動の充実が少しずつ成果として表れてきている。	

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	・朝学習・授業時に、書き込み式ドリルやドリルパーク、学習アプリケーションを活用して、一人ひとりの課題に合った漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。(週に1度以上) ・1学期は、自立した学び手を育成することを目指し、教師一人ひとりが研究、計画を立案することができた。2・3学期に、研究・公開授業を行い、成果と課題を共有する。	・変更なし ・1人1台端末を活用し、自立した学び手を育成することを目指した授業を行い、成果と課題を共有する【学年で年に1度程度】。
思考・判断・表現	B	・週に1回以上の振り返りには取り組むことができたが、評価規準を児童に示すことについては、学級によって差が見られる。 ・ICTを効果的に活用した授業は、6割程度であった。単元の中で1回以上位置付けるなど、さらに効果的な活用を推進していけるよう工夫していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)